

作成日:2019年12月05日

製品安全性データシート


1.【製品及び会社情報】

カタログ番号	268620
製品名	BD Difco™ D/E ニュートライジング寒天培地
会社名	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
住所	東京都港区赤坂4丁目15番1号
連絡先	0120-8555-90
	利用可能時間:9:00 - 17:00(土曜、日曜、祝日、弊社指定休日を除く)
使用上の制限	研究用試薬

2.【危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険	火薬類	分類対象外	
	可燃性・引火性ガス	分類対象外	
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外	
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外	
	高压ガス	分類対象外	
	引火性液体	分類対象外	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	分類できない	
	自然発火性液体	分類対象外	
	自然発火性固体	分類できない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	分類できない	
	酸化性液体	分類対象外	
	酸化性固体	分類できない	
	有機過酸化物	分類できない	
	金属腐食性物質	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
		急性毒性(経皮)	分類できない
		急性毒性(吸入:ガス)	区分外
		急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性・刺激性		分類できない	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性		分類できない	
呼吸器感作性		区分1	
皮膚感作性		区分1	
生殖細胞変異原性		区分外	
発がん性		区分外	
生殖毒性		区分外	
特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	区分外		
特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)	区分1(呼吸器系)		

環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性 水生環境急性有害性 水生環境慢性有害性	分類できない 区分外 区分外
シンボル		
注意喚起語	危険	
危険有害性情報	飲み込むと有害(経口) アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ 長期または反復暴露による呼吸器系の障害	
注意書き	安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 ・換気が十分でない場合には呼吸用保護具を着用すること。 ・保護手袋を着用すること。 ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 ・取扱い後はよく手を洗うこと。 ・汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。 	
応急措置	<ul style="list-style-type: none"> ・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 ・飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。 ・呼吸に関する症状が出た場合には、医師の診断、手当てを受けること。 ・皮膚刺激又は発疹がおきた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 	
保管 廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ・涼しく換気の良いところで保管すること。 ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。 	

3.【組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名または一般名	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
亜硫酸水素ナトリウム	3～7%	7631-90-5	1-502	

4.【応急処置】

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 呼吸に関する症状が出た場合には医師を呼ぶこと。
皮膚に付着した場合	多量の石鹼と水で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹がおきた場合は、医師の診断、手当てを求めること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。

飲み込んだ場合 予想される急性症状及び遅 発性症状	眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。 情報無し
---------------------------------	---

5.【火災時の措置】

消火剤 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性 特有の消火方法 消火を行う者の保護	水、二酸化炭素等 データ無し 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め完全な防護服(耐熱性)及び長靴 を着用する。
--	--

6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項 保護具および緊急措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8. 曝露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、 眼、皮膚への接触や粉じんやヒュームの吸入を避ける。 風上に留まる。 低地から離れる。
環境に対する注意事項 回収・中和 封じ込め及び浄化の 方 法・機材 二次災害の防止策	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。 危険でなければ漏れを止める。 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7.【取扱い及び保管上の注意】

取扱い	技術的対策 「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 局所排気装置・全体換気 「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。 安全取扱注意事項 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと 接触、吸入又は飲み込んでではない 眼との接触を避ける。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保管	接触回避 「10. 安定性及び反応性」を参照。 技術的対策 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換 気の設備を設ける。 混触禁止物質 「10. 安定性及び反応性」を参照。 保管条件 酸化剤から離して保管する。 炎及び熱表面から離して保管すること。 冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。 容器包装材料 データ無し

8.【曝露防止及び保護措置】

製品としての情報がないため以下、亜硫酸水素ナトリウムの曝露防止及び保護措置を記載する。 管理濃度	未設定
---	-----

(作業環境評価基準)**許容濃度**

日本産業衛生学会 未設定
ACGIH(2005年版) TLV-TWA 5mg/m³

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具 換気が十分でない場合には、呼吸用の保護具を着用すること。
手の保護具 保護手袋を着用すること。
眼の保護具 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具 保護衣及び長靴を着用すること。

衛生対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9.【物理的及び化学的性質】

物理的状态、形状、色など	粉体、灰色
臭い	特徴的な臭い
pH	データ無し
融点・凝固点	データ無し
沸点、沸騰範囲	データ無し
引火点	データ無し
燃焼範囲 下限・上限	データ無し
蒸気圧	データ無し
蒸気密度(空気=1)	データ無し
比重(密度)	データ無し
溶解度	水に可溶
n-オクタノール/水分係数	データ無し

10.【安定性及び反応性】

製品としての情報がないため以下、亜硫酸水素ナトリウムの安定性及び反応性を記載する。

安定性	通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性	亜硫酸ガス臭を放ち空気中で徐々に酸化される。
避けるべき条件	加熱、高温、着火源
混触危険物質	強酸化剤、酸、アルミニウム
危険有害な分解生成物	硫黄酸化物

11.【有害性情報】

製品としての情報がないため以下、亜硫酸水素ナトリウムの有害性情報を記載する。

急性毒性

経口	ラット LD ₅₀ 2000mg/kg
経皮	経皮毒性はデータが不十分であるが、ラット経皮 LD ₅₀ > 2000mg/kg のデータが報告されている。

皮膚腐食性・刺激性

動物実験では無刺激であるが、濃厚溶液でヒトに刺激を与えるという情報があり、国連危険物輸送においてもクラス8とされている。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

水溶液での動物実験結果は無刺激とされているが、ヒトの事例がある。

呼吸器感作性

ヒトの疫学情報で、少数例であるが吸入、皮膚接触、経口摂取によるアレルギーが報告されている。亜硫酸酸化酵素欠損のヒトに起こるといわれている。

皮膚感作性

吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ。アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ。

生殖細胞変異原性	in vitroの試験結果に陽性があるが、in vivoの結果はすべて陰性。
発がん性	ACGIH 2005 年 A4 ヒトに対して発がん性物質として分類。 IARC 2005 年 グループ 3 ヒトに対する発がん性については分類できない。
生殖毒性 特定標的臓器／全身毒性(単回)	多世代の試験で悪影響が報告されていない。 ヒトのエアゾール曝露で呼吸器刺激が報告されている。呼吸器への刺激のおそれ。
特定標的臓器／全身毒性(反復)	洗濯労働者、及び食品摂取者に喘息の報告がある。 ヒト、動物への影響はグラム/kg/日オーダーの摂取で報告されている。 長期又は反復曝露による呼吸器系の障害。
吸引性呼吸器有害性	情報無し

12.【環境影響情報】

製品としての情報がないため以下、亜硫酸水素ナトリウムの環境影響情報を記載する。

生態毒性

水生環境急性有害性:	甲殻類(オオミジンコ)の 48 時間 LC ₅₀ = 119000 μg/L
水生環境慢性有害性:	難水溶性でなく(水溶解度=540g/L ²⁶⁾ 、急性毒性が低い

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物

廃棄の際は、関連法規ならびに地方自治体の規準に従う。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

14.【輸送上の注意】

国際規制

国連番号	該当なし
国連分類	該当なし

特別安全対策

輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れなどのないことを確かめる。
転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

15.【適用法令】

労働安全衛生法	名称等を表示すべき有害物(法第57条、施行令第18条別表第9)(政令番号第26号:亜硫酸水素ナトリウム) 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号 第26号:亜硫酸水素ナトリウム)
労働基準法	該当なし
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	該当なし
毒物及び劇物取締法	該当なし
大気汚染防止法	該当なし
水質汚濁防止法施行令第2条有害物質	該当なし
海洋汚染防止法	有害液体物質
消防法	危険物非該当
船舶安全法	腐食性物質
航空法	腐食性物質

16.【その他の情報】

参考文献

- ・ 厚生労働省ウェブサイト 職場のあんぜんサイト
- ・ 製品評価技術基盤機構 GHS混合物分類ツール(GHS改定2版対応版)

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

改訂履歴 新規作成 2019年12月5日